

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月7日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0172902330		
法人名	社会福祉法人 旭川福祉事業会		
事業所名	グループホーム おおまち		
所在地	北海道旭川市大町1条3丁目14番7号 オークビル2階 (電話) 0166-51-8228		
評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成21年3月2日	評価確定日	平成21年3月10日

## 【情報提供票より】(平成21年2月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)17年 8月 29日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 8人, 非常勤 10人, 常勤換算	12.3人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	7階建ての ~ 2階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	10,500~18,500 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

### (4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	6 名		
要介護5	2 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 85 歳	最低	71 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤井病院・佐野病院・かむい歯科診療所
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム独自に職員の「身体拘束・虐待予防・防止」の自己評価を実施し、新たな気づきや振り返りで職員自らが改善の機会やケアサービスの質の向上に取り組んでいる国道沿いの鉄筋コンクリート造り7階建ての2階部分に開設されている2ユニットのグループホームです。介護福祉士、介護支援専門員など資格取得にも法人の経費援助や業務推進会議で感染症、薬の効能など内部研修や外部研修参加も積極的に取り組んでいます。家族会との新年会、敬老会も開催され職員との親睦や不安、意見交換など言い表せる機会を設けて、運営に反映させています。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では、運営推進会議の定期的開催や具体的取り組みについて課題が挙げられていましたが、食事会開催や避難訓練など具体的に運営されて委員との活発な意見交換が行われ運営に反映されています。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、全ての職員が参加して行われケアサービスの質の向上に活かす具体的な取り組みが行われています。また、外部評価の結果については、職員間で話し合われていると共に運営推進会議にも報告され意見交換されています。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、2ヶ月毎に定期的開催され、主な議題は 食事会開催(食材、副食等)について意見交換 緊急時の避難訓練について クリスマス会開催について 介護報酬改定について 入居者行方不明マニュアルについて
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	定期的な機関誌の発行、家族会との共催の新年会、敬老会を通じて不安な点など意見交換が行われています。また、来訪時には、日常生活の様子や健康状態が話し合わせ要望、苦情等表せる機会を設けて運営に反映されています。苦情相談窓口を明示して、苦情等外部へ表せる機会も作られています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	大町商工会の七夕祭りや地域の大町互助会婦人部ボランティアや老人会、児童会の慰問等の受け入れ、町内会に加入して地域の行事参加を通じて交流や連携に努めています。また、建物1階部分に地域の独居老人の集いの場を開設して地域と連携する取り組みも検討されています。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えるサービスとして、母体法人の経営理念をもとにグループホーム独自の行動指針をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティング時に理念を唱和して、理念を共有し、その実践にむけて日々取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	大町商工会の七夕祭りや地域の大町互助会婦人部ボランティアや老人会、児童会の慰問等の受け入れ、町内会に加入して地域の行事参加を通じて交流や連携に努めている。また、建物1階部分に地域の独居老人の集いの場を開設して地域と連携する取り組みも検討されている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全ての職員が参加して行われケアサービスの質の向上に活かす具体的な取り組みが行われている。また、外部評価の結果については、職員間で話し合われていると共に運営推進会議にも報告され意見交換されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、2ヶ月毎に定期的開催されている。委員は利用者、家族会会長、地域代表、地域の介護支援専門員、ホーム長、管理者で構成され具体的に活動に取り組んでいる。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業所は、市担当者との連携の重要性について十分理解し、市主催の研修会、講習会には積極的に参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>金銭管理は、毎月出納を報告している。また、機関誌「ほほえみ」を発行して日常生活の様子や行事参加の様子など分かりやすく報告されていると共に新規採用職員の紹介記事も掲載されている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会との共催の新年会、敬老会を通じて不安な点など意見交換が行われている。また、来訪時には、日常生活の様子や健康状態が話し合われ要望、苦情等表せる機会を設けて運営に反映されている。苦情相談窓口を明示して、苦情等外部へ表せる機会も作られている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の離職率は低く、利用者に影響を与えないように配慮する取り組みをしている。また、来訪者や利用者に分かりやすいように、その日の職員の勤務者の掲示が行われている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会など外部の研修参加や毎月業務推進会議で、救急救命や感染症、行方不明者対応方法、薬の効能など内部研修が充実している。		特筆すべき点として、ホーム独自で職員の「身体拘束・虐待予防・防止」の自己評価を実施し、新たな気づきや振り返りで職員自らが改善の機会やケアサービスの質の向上に取り組んでいる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センターとの連携やグループホーム連絡協議会、ケアマネジャー会議、同一法人他施設の研修参加や交流などでサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		今後は、さらに同業者との相互訪問、交流が促進されることを期待します。
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、入居前には、利用者及び家族の見学で職員や他の利用者、場の雰囲気に馴染めるように工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、ラジオ体操やカラオケなど一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、衣・食・住について本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	一人ひとりの思いや意向の把握に取り組み、散歩や買い物、入浴やカラオケなどの趣味への支援やホーム行事への参加など本人の希望や意向を尊重した取り組みが行われている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、介護計画は作成されて利用者、家族の希望や医師からの助言、職員からの意見も取り入れ具体的になっている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、3ヵ月毎のカンファレンスでの評価や状態変化時には現状に即した介護計画の見直しが行われている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	本人や家族の状況、その時々要望に応じて、職員の通院への支援や医師による往診が柔軟に支援されている。また、嗜好品の買い物や訪問サービスによる理美容利用も行われている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医や協力医療機関との連携で気軽に相談できる医師が確保されている。また、通院や往診など適切な医療が受けられるよう支援されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、「指針」が明確化されできるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「接客・マナー」の外部研修参加や一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した声かけが行われている。また、記録等の個人情報については法令遵守した取扱いをしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、散歩や買い物、入浴など希望にそって支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、食材の下準備や食器洗い、おやつ作りなど職員が一緒に行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回を目安に一人ひとりの希望やタイミングに合わせてゆっくりと入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かしながら食器洗いやおしぼりたたみ、テーブル拭きや調理の準備、カラオケなど本人の希望や意向に沿った支援がされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	屋外でのジングスカン、散歩や買い物、花見や花菜里ランド訪問、常盤公園散策など戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム長、管理者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。また、身体拘束の外部研修に参加し、職員間で共通認識を持っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>リスクマネジメント委員会でリスク管理を行っている。また、資格を持った防火管理者が配置され、定期的に火災避難訓練や消火設備の点検が実施されている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養バランスや摂取カロリーは、管理栄養士によるメニューの作成で把握され、個別の嚥下状態などによる支援も行われている。また、具体的な食事や水分の摂取量も把握されている。</p>		<p>特筆すべき点として、給食会議も定期的実施され、食品の安全対策や食材の検討が話し合われています。</p>
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。共用空間は広く、利用者が一人になったり、談笑できるように椅子やソファが配置され生活感が感じられる。壁には、季節に合わせた作品や行事参加の写真が飾られ生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、テレビ、冷蔵庫や使い慣れた家具などが持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。各ユニットを大雪通り、旭橋通りと名付けて、居室の表札には、大雪通り 番地と表示して利用者の住所を表す取り組みも行われている。</p>		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。